

# 広報 あいづ ばんげ

7

No.695  
2022

## 目次—CONTENTS—

持続可能な農業経営の確立を目指して	2
庄平のどろんこ日記・まちの話題	3
ふくしま健康ポイント	6
マイナンバー特集～作って便利に! 知ってお得に!～	8
第26回参議院議員通常選挙は7月10日が投票日です	10
農地中間管理事業をご利用ください!	12
令和4年度会津宮川土地改良区配水計画	13
住民基本台帳の閲覧状況	
戦没者等の遺族に対する第十一回特別弔慰金	14
公共下水道の整備区域を拡大しました	15
お知らせインフォメーション	16
警察署・消防署からのお知らせ	20
図書室だより・町史編さん調査余話(56)	21
こどもと健康の広場	22
地域おこし協力隊だより	24

表紙：田植え体験をしました

# の持続可能な農業経営 の確立を目指して

コロナ禍の影響は、農業経営にも大きな影響を与え、令和3年産米の買い取り価格は、1俵（60キログラム）あたり1万円を割り、稲作経営は、大変厳しい状況を迎えている。

町では、会津農林事務所会津坂下農業普及所や関係団体の協力をおおぎ、この危機的状況を打破し、持続可能な農業経営の確立に向け走り始めた。今年度、水稲経営で特に労力と時間がかかるとされている春作業の省力化と低コスト化を図るため、苗を田植える慣行作業から、田植機を使わず直接水田に種子を播く「直播」(乾田直播、代掻き同時播種、ドローンばらまき播種)栽培技術の確立に向けたチャレンジが始まった。

今回、このプロジェクトの発起人である会津坂下町産業課農林振興班渡部聡班長に話を聞いた。

## ○きっかけは？

本町農業経営の大きな柱は稲作であり、町内の29000ヘクタールと言われる水田を今後も維持・継承していくためには、やはり水稲を中心とした栽培体系で農業経営を持続させなければなりません。

コロナ禍の影響で米価は下がり、今後もどうなるかわからない状況で、どのように農家所得を確保していくかを考えた時に、米価の回復を待つより、生産コスト削減の方法を模索する方が確実であると考えました。そこで関係者へ相談したところ、会津坂下農業普及所からは、技術面の全面的なサポートをいただけたとの話があり、農業者からも「町がそう考えるなら協力するからやってみんべ」と言われた事が後押しとなりました。

【乾田直播】



## ○実際どう進めて行くのか？

乾田直播や、スマート農業の一つとして行われているドローンばらまき播種については、町内一部地域における実証試験の実施例がありました。代掻き同時播種についてはまだ県内での実証試験の実施例がありませんでした。今回は、これら三つの直播の実証試験を、町内全域を対象としたそれぞれの地域で実施していきたいと考えています。さらに、作業時間の

大幅短縮と省力化が見込まれるドローンを使用した農薬や追肥の散布についても同時に実施していきます。

## ○最終的にはどうするのか？

新たな水稲の作付技術を本町で普及させ、生産コストの削減と省力化を図ることで、米価が下落しても農業者の所得が確保できるような経営体系を確立したいと考えています。県、町、関係団体、農業者が一体となり令和4年産で実証試験を行い、栽培方法をマニュアル化したうえで、令和5年度から町内の農業者の方々への技術普及に取り組んでいきたいと考えています。

【ドローンばらまき播種】



【代掻き同時播種】

